

令和2年度第1回富里市地域公共交通会議 会議録

日時	令和2年8月4日（火） 午後2時00分～午後3時01分	場 所	富里市すこやかセンター 2階会議室1
出席委員	山根康夫委員（会長）、長谷川英利委員（副会長）、相川裕史委員、佐藤義尚委員（南裕也氏代理出席）、坂口篤委員（中村寛氏代理出席）、寺井繁樹委員、岡野肇委員、河合俊彦委員、篠崎秀樹委員、伊藤賢委員、平山和年委員、相馬きよ子委員、中野善敦委員		
欠席委員	なし		
説明者	健康福祉部高齢者福祉課：中澤課長、押尾副主幹、成毛主査補		
事務局	総務部：粕谷総務部長 総務部企画課：永田課長、土屋副主幹、椎名主任主事		
内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議題（議事進行は条例第6条の規定により会長が行う）</p> <p>（1）自家用有償旅客運送（富里市移送サービス事業）の登録更新について 資料1に基づき説明者より説明</p> <p>質疑等</p> <p>【委員】</p> <p>事業内容を確認すると月の利用回数が4回までとなっているが、資料によると、高齢化率や要介護認定者が増加しており、それに伴い利用者数や利用回数も増えるのではないかと想定されるが、4回を上限として設定していることの根拠は何か。</p> <p>【説明者】</p> <p>主な利用先として、通院が多く、利用の多い方でも、月に2回か3回くらいの利用であることから、月4回とさせていただいている。</p> <p>【会長】</p> <p>この事業の市民の方々の認知は、しっかり図られているのか。</p> <p>【説明者】</p> <p>資料の移送サービス事業の内容にあるとおり、在宅の要介護・要支援状態に</p>		

ある高齢者、重度心身障害者を対象者としていることもあり、ある意味知る人ぞ知るといったサービスになっているものの、対象となる方々が年々増加傾向にあることから、必要とされる方への周知に努めていく。

【会長】

市の広報等を活用して制度の周知はされているのか。

【説明者】

市の広報や、社会福祉協議会の方に事業を委託していることから、当協議会の広報に掲載し、周知を図っている。

【委員】

事業の実施状況について、近年の状況について分かれば教えてほしい。

【説明者】

令和元年度については、資料に記載のとおりである。

平成30年度については、利用回数が477回、登録者数が54人、平成29年度については、利用回数が515回、登録者数が52人となっており、令和元年度については利用回数、登録者数ともに増加傾向にあるという状況である。

【会長】

他に質疑等がないため、協議が調ったこととし、担当課説明のとおり進めることとしてよいか。

【委員】

一同承認。

【会長】

異議なしと認める。担当課においては速やかに手続きを進めることとする。

(2) さとバス及びデマンド交通の利用状況等について

資料2を基に事務局より説明

質疑等

【委員】

デマンド交通運行事業者であるが、運行に当たり、一つ懸念となる案件があったことから、報告させていただく。

利用者が86歳の高齢の方がおり、中部ふれあいセンターからの乗車ということで、乗務員が現地で確認をしたところ、姿が見えなかった。

後に分かったこととして、利用者の方は、暑さの影響からか、意識が朦朧と

しており、停留所が分からないような状態で、中部ふれあいセンターの隣にある七栄交番にて、警察官に質問を受けていたようである。利用者はその後、タクシーにて自宅に帰ったとのことであったが、運行事業者としても、そういった方々への声掛けは行っていきたいと考えているが、この暑さであることから、今後の懸念案件として報告させていただく。

【委員】

さとバスの運行事業者である。

前回の会議においてもお話をさせていただいたが、現行のさとバス車両については、耐用年数を上回って運行している状況である。

現在新車を購入するとなると非常に高額であることから、中古車が出回れば当方としても、市に情報提供させていただこうとは考えている。

今後の車両の買換えや今後の運行について、何か計画されていることがあれば伺いたい。

【事務局】

市としては、今年度庁内研究会を設置したことから、その中において、バス車両の買換えや今後の運行のあり方について、調査研究を進めていきたい。

当研究会における協議の内容等については、この地域公共交通会議においても、報告させていただきたい。

【委員】

車両の買換えを検討される際には、高齢者等にも配慮し、ノンステップバス等の低床車両を導入するよう言われていることから、その点についても考慮していただきたい。

【委員】

運行業務を担当する労働者側の立場として確認させていただく。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対し、デマンド交通について、利用者側からすれば、相乗りに対する不安があるといった中で、調べたところ、富里市では増便対応しているということであったが、そのような対応をされているのか。

【事務局】

通常デマンド交通は相乗りということで運行をしているところであるが、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、予約1件につき1台という形で配車している。

【委員】

この増便に対しては、国からの補助金が交付されると伺っているが、活用さ

れているのか。調べたところ、富里市がそういった補助金を活用した事例として紹介をされていたところから、素晴らしい取組であると思う。

【事務局】

今回、新型コロナウイルス感染症に対応するための補助金として、地方創生臨時交付金が国の方で創設されている。様々な事業が対象となるが、その一つとしてデマンド交通についても、対象事業とさせてもらっている。

4. その他

【事務局】

先ほどもお知らせさせていただいた庁内研究会の設置について再度報告する。

富里市における地域公共交通のあり方全般について調査研究するための、庁内組織として、富里市地域公共交通に関する研究会を設置した。今後、研究会において協議された事項については、地域公共交通会議にも報告等させていただくこととなるので、御承知いただきたい。

委員からの意見等なし

5. 閉会

以上